

精力剤として知られるマムシですが、その昔マムシの交尾を目撃した人が、その光景が非常に激しく一昼夜も続くと知って、これにあやからうとマムシを粉にして飲んでみたというところから始まったものらしいです。一方マムシの側からすれば、「勝手に俺たちを薬にしがたって、確かに自分たちの交尾は一昼夜続くような激しいものだが、せいぜい1年に1回くらいのものだ。ところが人間は年がら年中してやがる」と知って、これにあやからうと人間に噛みつくようになったんじゃないかという…と人間国宝、桂米朝師匠が以前何かの話の枕で言っていました。

今月号の特集は「子どもと漢方―日常診療に役立つ考え方・使い方」です。何でもかんでもEBMという昨今ですが、漢方には漢方の考え方があり、先人たちの知恵がたくさん詰まっています。特に機能性疾患と言われるような病態には西洋医学よりも優れている面が多々あります。最近では漢方のEBMの確立を目指す動きもあります。現代の漢方薬は飲みやすさの面でもだいぶ改善されています。子どもに服させるには工夫も必要でしょうが、小児科領域でもその考え方や使い方を理解すれば、アレルギー疾患、腹痛、便秘、頭痛、めまいなどに漢方薬が効果を発揮します。インフルエンザなどにも効果があ

ります。漢方の体系を全て理解するのは無理としても、本書を参考にそのポイントを押さえることで、日常診療の一助となれば幸いです。

「綜説」では、以前に本誌で流行性筋痛症の原因としてご紹介したパレコウイルスA感染症について、ウイルスの性状、診断、治療の現状と課題について詳細な解説をいただいています。「診療」では小児アレルギーのピットフォールのな魚・甲殻類・魚卵、そして果物に対するアレルギーの診断について具体的に記載していただきました。「小児保健」ではダウン症幼児を持つ母親の心理とソーシャルサポートについて、患者・家族・医療・カウンセリングを含めて論じられています。「社会小児科学」では災害時の小児周産期リエゾンについて、静岡県での取り組みを中心に重要なご提言が述べられています。「症例」では、トスフロキサシンによる低血糖性昏睡をきたした症例が紹介されています。要注意です。

熱があるなら葛根湯をお服みなさい、頭痛なら葛根湯をお服みなさい、腹痛なら葛根湯をお服みなさい、退屈だったら葛根湯をお服みなさい、という小断もあります。効果が多様というのも漢方の特徴ということでしょう。

(伊藤 保彦)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第61巻 第3号 3月号
2020年3月1日発行（毎月1回1日発行）
定価（本体2,700円＋税）
年間購読料金
定価（本体42,100円＋税）
〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕
※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社
発行者 福村 直樹
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14
Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕
Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕
Fax 03(3813)0288
<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>
振替口座 00130-1-191269
印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005
広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。
- ・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。